

第2回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会 ～神戸川における護岸整備について～

平成28年1月13日

神戸川における護岸整備について

写真(馬木新大橋から上流を望む)



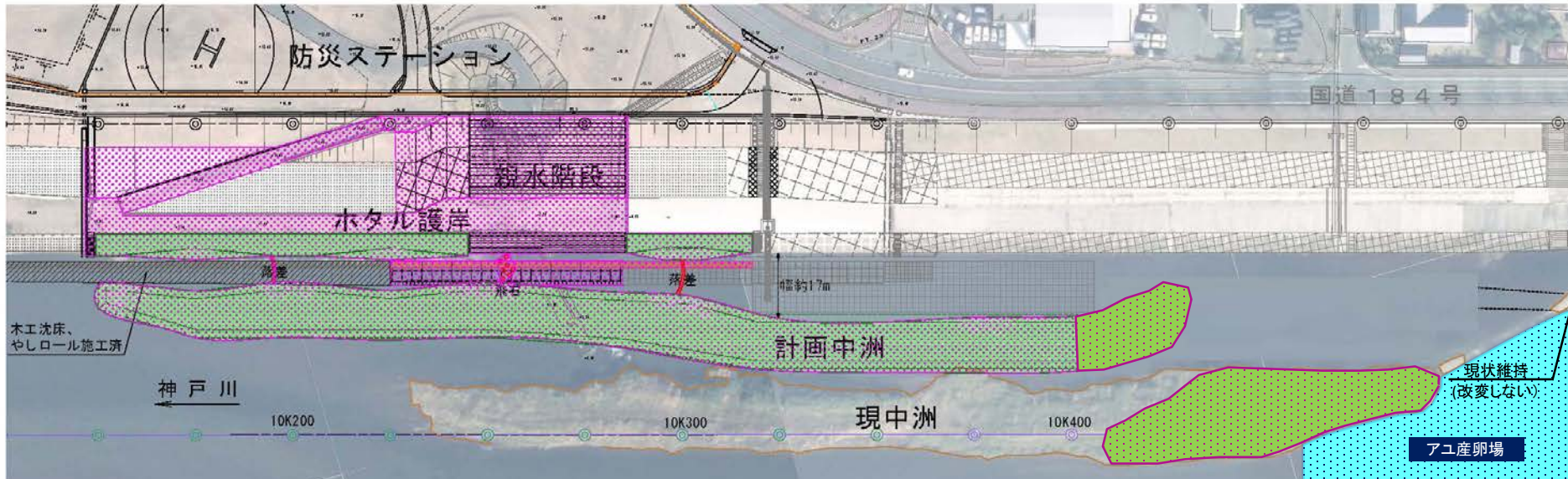
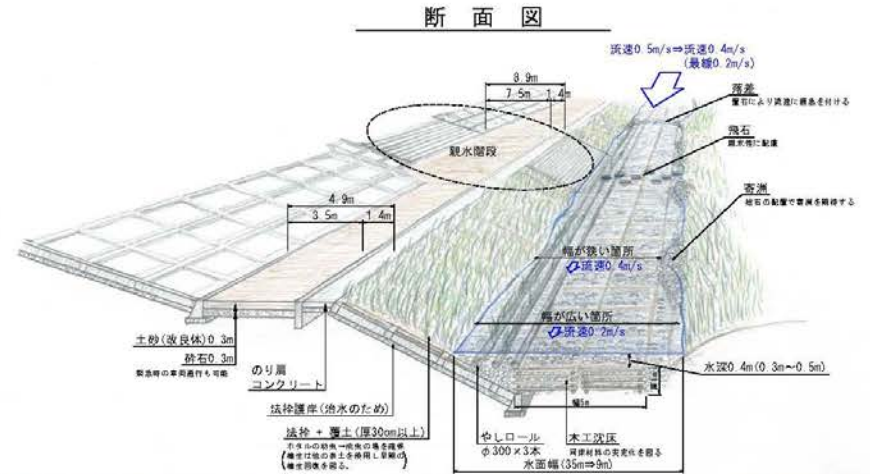
「護岸（水路）の計画案」

【目的】ホタルが生息可能な環境の創造

※注意点：既存のアユ産卵場への影響を与えないこと。
治水能力を損なわないこと。

項目	現状	課題	対策案	生息条件	
① 右岸側（ホタル）	流速	0.5m/s程度 0.3m/s程度以下で 緩急が必要	○捨石を設置 捨石を設置して流速の緩急をつけ、寄洲の回復を維持	ホタル: 0.01~0.30m/s カワニナ: 2.0m/s以下	
			○中州を右岸に寄せる 右岸側を現状の半分程度に狭め、流速を下げる		
	水深	0.4m程度 (0.3~0.5m)	適切な水深だが 多様な水深が必要	○置石を設置 置石により、水深に変化をつける	ホタル: 0.10~0.40m カワニナ: 1.0m以下
	河床材料	砂礫	礫、砂礫の維持が必要	○右岸側（ホタル水路）の河床は木工沈床 ホタル、カワニナ環境配慮＋治水対策（護床）	ホタル: 礫、砂礫など カワニナ: 泥～礫、コンクリート
護岸	土・法枠護岸	湿度のある土が必要 草丈0.5m以上が必要	○右岸側の低水護岸の植生 低護岸を土で覆う（隠し護岸）	※ホタルの蛹は土中、 産卵は水辺のコケ等	
② 左岸側（アユ）	流速	0.5m/s程度	○中州を右岸に寄せる 左岸側は現状の流速を維持する	—	
	水深	0.4m程度 (0.1~1.5m)		現状維持	—
	河床材料	砂礫	○ホタル水路の流入部は現状維持 平時の右岸側、左岸側の流速の変化が無いように 流入部の中州はそのまま	—	

「護岸（水路）のイメージ」



※上記図面は関係機関等と調整中の物であり、今後変更となることがあります。